



2015年度 環境活動レポート

(対象期間：2015年10月～2016年9月)



発行日：2016年11月25日
改定日：2016年12月20日

I. ごあいさつ

クサカ建設株式会社は、昭和42年の設立以来、お客様の幅広いニーズにお答えする総合建設会社として、数多くの実績を積み重ね、地域社会の発展に全力を傾注してまいりました。全従業員が地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と環境が共存する社会を目指して取り組んでまいります。

環境方針

当社は、当社の関わる建築工事において、地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の一層の低減を図るべく、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を推進します。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。（電気、ガソリン、灯油、都市ガス、軽油）
3. 事務所での廃棄物の削減を推進します。
4. 建設現場等での建設リサイクル、再生資源の利用を推進します。
5. 水道使用量の削減を推進します。
6. グリーン購入を推進します。
7. 環境に配慮した施工技術の開発と顧客への提案を推進します。
8. 地域の環境美化活動を推進します。
9. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2015年6月15日

代表取締役社長

日下篤

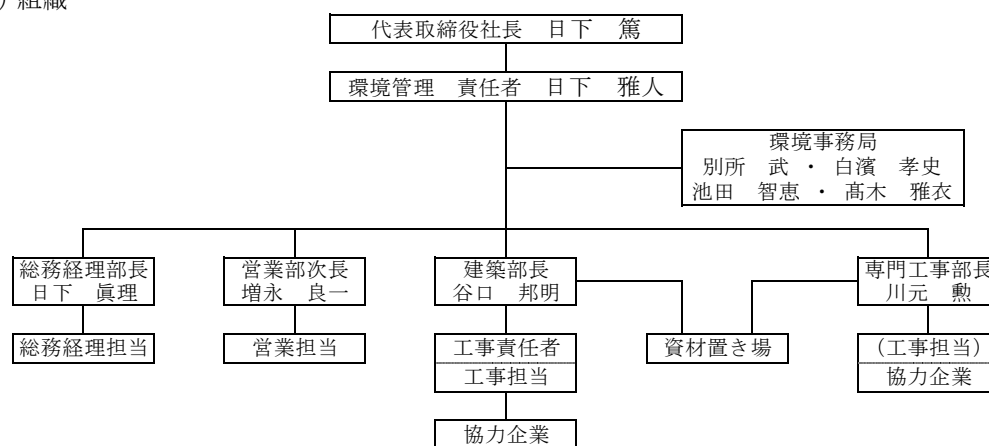
II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
クサカ建設株式会社
代表取締役社長 日下 篤
- (2) 所在地
本 社 〒660-0076 兵庫県尼崎市大島3丁目30番5号
資材置き場 〒660-0076 兵庫県尼崎市大島3丁目27
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
環境管理責任者 専務取締役 日下 雅人 TEL:06-6416-0181
担当者 総務部 池田 智恵 TEL:06-6417-8381
Email: kenchiku@kusaka-kk.co.jp
- (4) 事業内容
土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび・土工事業、ほ装工事業
許可番号 兵庫県知事 許可(特-24) 第202217号 許可年月日 平成24年5月30日
許 可 期 限 平成29年5月29日
左官工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業
鋼構造物工事業、鉄筋工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業
防水工事業、内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業
許可番号 兵庫県知事 許可(特-26) 第202217号 許可年月日 平成26年12月3日
許 可 期 限 平成31年12月2日

- (5) 事業規模
設立 昭和42年4月
資本金 6,000万円
年間工事完成高 1,495百万円 (2015年度)
事業所の規模

	本社	資材置き場	合計
従 業 員	23名	無人	23名
延 べ 床 面 積	288㎡	345.96㎡	633.96㎡

- (6) 組織



- (7) 事業年度 10月～翌年9月

III. 認証・登録の対象範囲

登録組織名： クサカ建設株式会社
対象事業所： 本社、資材置き場
活動： 土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび・土工事業、ほ装工事業
左官工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業
鋼構造物工事業、鉄筋工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業
防水工事業、内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業

IV. 主な環境負荷の実績

わが社がエコアクション21の認証登録後の初年度となる2015年度の二酸化炭素排出量は55,913.1kg、前年対比9.4%の削減となった。これはエコアクションの基準年としている2013年度から28.3%の削減を達成した事になる。

- ・本社事務所の排出量は25,843.9kgと全体の46%、建設現場における排出量は30,069.1kgと54%を占めている。

- ・二酸化炭素排出量における一番インパクトの大きいのはガソリンで、全体の54.3%に至り、全社使用料は13,070.7Lで前年対比2.8%増加した。建設現場の地理的問題から通勤用の車が必要な場合にはガソリンの使用量が上昇する。取組みの強化が必要である。

- ・次に電力の使用における二酸化炭素排出量が大きく44.3%を占める。電力使用量は47,531.0kWh、前年比9.5%の削減に成功したが引き続き節電努力を継続する。

- ・灯油、軽油、都市ガスの使用量はいずれも前年比減少しているが、これらは建設現場の状況に左右される。

- ・2015年度の廃棄物排出量は2,012.8tで前年比22.2%増加。一般廃棄物は11.7%増加しているが、産業廃棄物が55.5%減少した。

- ・総排水量は建設現場の状況により大きく異なり、1,052m³は前年比0.6%の微増であるが基準年度の383m³の2.7倍という数字であり実態を見極める必要がある。

		単位	2013年度 (基準年度)	2014年度	2015年度	前年比
完工高		百万円	2,259	1,847	1,495	—
二酸化炭素 排出量	全社	kg-CO ₂	77,957.2	61,724.3	55,913.1	△9.4%
	事務所	kg-CO ₂	33,476.7	30,544.6	25,843.9	△15.4%
	建設現場	kg-CO ₂	44,480.5	31,179.7	30,069.1	△3.6%
電力		kWh	80,561.0	52,506.0	47,531.0	△9.5%
		kg-CO ₂	42,052.8	27,408.1	24,811.2	
ガソリン		L	14,210.1	12,708.5	13,070.7	+2.8%
		kg-CO ₂	32,991.0	29,504.8	30,345.7	
灯油		L	144.0	236.3	94.0	△60.2%
		kg-CO ₂	358.8	588.9	234.2	
都市ガス		Nm ³	63.0	316.0	130.0	△58.9%
		kg-CO ₂	129.2	648.1	266.6	
軽油		L	924.1	1,362.0	97.3	△92.9%
		kg-CO ₂	2,425.2	3,574.4	255.3	
廃棄物排出量		t	2,477.6	2,587.3	2,012.8	+22.2%
一般廃棄物		kg	実績不明	1,282.8	1,432.4	+11.7%
産業廃棄物		t	2,477.6	1,304.5	580.4	△55.5%
総排水量		m ³	383.0	1,046.0	1,052.0	+0.6%

注) 化学物質は使用していない。

注) 一般廃棄物の2014年度値は2015年7月以前の実績不明の為、2015年8～9月の実績を年率換算して算出。それに伴い廃棄物排出量も年率換算したもので合計。

V. 環境目標及びその実績

(1) 中期目標

年 度		2013年度 (基準年度)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	77,957.2	76,398.0	75,618.4	74,838.9	74,059.3
	対基準		△2%	△3%	△4%	△5%
【事務所】 排出量削減	kg-CO ₂	33,476.7	32,807.1	32,472.4	32,137.6	31,802.8
	対基準		△2%	△3%	△4%	△5%
1) 電力使用量 使用量削減	kWh	36,998.0	36,258.0	35,888.1	35,518.1	35,148.1
	kg-CO ₂	19,313.0	18,926.7	18,733.6	18,540.4	18,347.3
2) ガソリン 使用量削減	L	6,045.0	5,924.1	5,863.7	5,803.2	5,742.8
	kg-CO ₂	14,034.5	13,753.8	13,613.5	13,473.1	13,332.8
3) 都市ガス 使用量削減	Nm ³	63.0	61.7	61.1	60.5	59.9
	kg-CO ₂	129.2	126.6	125.3	124.0	122.7
【建設現場】 排出量削減	kg-CO ₂	44,480.5	43,590.9	43,146.1	42,701.3	42,256.5
	対基準		△2%	△3%	△4%	△5%
4) 電力使用量 使用量削減	kWh	43,563.0	42,691.7	42,256.1	41,820.5	41,384.9
	kg-CO ₂	22,739.9	22,285.1	22,057.7	21,830.3	21,602.9
5) ガソリン 使用量削減	L	8,165.1	8,001.8	7,920.2	7,838.5	7,756.9
	kg-CO ₂	18,956.6	18,577.5	18,387.9	18,198.3	18,008.8
6) 灯油 使用量削減	L	144.0		実態把握及び省エネ励行		
	kg-CO ₂	358.8				
7) 都市ガス 使用量削減	Nm ³	0.0		実態把握及び省エネ励行		
	kg-CO ₂	0.0				
8) 軽油 使用量削減	L	924.1		実態把握及び省エネ励行		
	kg-CO ₂	2,425.2				
II. 廃棄物の削減						
1) 一般廃棄物 削減	kg	実績不明	実態調査	1,418.1	1,403.8	1,389.5
	対基準		1,432.4	△1%	△2%	△3%
2) 産業廃棄物の適正管理						
① 産業廃棄物 削減	t	2,477.6	2,428.0	2,403.3	2,378.5	2,353.7
	対基準		△2%	△3%	△4%	△5%
② 建設リサイクルの推進 向上	%	96.92	97.99	98.08	98.18	98.28
	対基準		+1.1%	+1.2%	+1.3%	+1.4%
III. 再生資源の利用促進						
IV. 水使用量 削減	t	実績不明	工事資材の再生材利用を協力業者へ依頼			
	対基準					
【事務所】 削減	m ³	383.0	375.3	371.5	367.7	363.9
	対基準		△2%	△3%	△4%	△5%
【建設現場】 削減	m ³	162.0	158.8	157.1	155.5	153.9
	対基準		△2%	△3%	△4%	△5%
V. グリーン購入の推進	m ³	221.0	216.6	214.4	212.2	210.0
	対基準		△2%	△3%	△4%	△5%
VI. 環境配慮工法の 開発と提案	品目	実績不明	実態調査	304.0	307.0	310.0
	対基準		301.0	+1%	+2%	+3%
VII. 環境配慮工法の開発と提案						
件	件	実績不明	積極的に提案を行う			
	対基準					

注) 電力の二酸化炭素排出係数は、平成25年度関西電力公表の0.522kg-CO₂/kWhを使用。

注) 化学物質は使用していない。

注) 一般廃棄物及びグリーン購入は2013年度実績が不明なため、2015年度実績を基準値として目標設定。

(2) 2015年度の実績

年 度 項 目		2015年度の実績 (2015年10月～2016年9月)				
		2013年度 基準値	目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	77,957.2	76,398.0	55,913.1	137%	○
			△2%	△27%		
【事務所】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	33,476.7	32,807.1	25,843.9	127%	○
			△2%	△21%		
1) 電力使用量 使用量削減	kWh	36,998.0	36,258.0	26,701.0	136%	○
	kg-CO ₂ 対基準	19,313.0	18,926.7	13,937.9		
			△2%	△26%		
2) ガソリン 使用量削減	L	6,045.0	5,924.1	5,102.6	116%	○
	kg-CO ₂ 対基準	14,034.5	13,753.8	11,846.5		
			△2%	△14%		
3) 都市ガス 使用量削減	Nm ³	63.0	61.7	29.0	213%	○
	kg-CO ₂ 対基準	129.2	126.6	59.5		
			△2%	△53%		
【建設現場】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	44,480.5	43,590.9	30,069.1	145%	○
			△2%	△31%		
4) 電力使用量 使用量削減	kWh	43,563.0	42,691.7	20,830.0	205%	○
	kg-CO ₂ 対基準	22,739.9	22,285.1	10,873.3		
			△2%	△51%		
5) ガソリン 使用量削減	L	8,165.1	8,001.8	7,968.1	100.4%	○
	kg-CO ₂ 対基準	18,956.6	18,577.5	18,499.2		
			△2%	△0.4%		
6) 灯油 使用量削減	L	144.0	実態把握	94.0		○
	kg-CO ₂ 対基準	358.8	省エネ励行	234.2		
7) 都市ガス 使用量削減	Nm ³	0.0	実態把握	101.0		○
	kg-CO ₂ 対基準	0.0	省エネ励行	207.1		
8) 軽油 使用量削減	L	924.1	実態把握	97.3		○
	kg-CO ₂ 対基準	2,425.2	省エネ励行	255.3		
II. 廃棄物の削減						
1) 一般廃棄物 削減	kg 対基準	実績不明	実態調査	1,432.4		○
2) 産業廃棄物の適正管理						
① 産業廃棄物 削減	t 対基準	2,477.6	2,428.0	580.4	418%	○
			△2%	△76%		
② 建設リサイクルの推進 向上	% 対基準	96.92	97.89	94.17	96%	×
			+1.1%	△4%		
III. 再生資源の利用促進	t 対基準	実績不明	実態調査	促進に努めた		○
IV. 水使用量削減						
m ³ 対基準	383.0	375.3	1,052.0	36%	×	
		△2%	+180%			
【事務所】 排出量削減	m ³ 対基準	162.0	158.8	121.0	131%	○
			△2%	△24%		
【建設現場】 排出量削減	m ³ 対基準	221.0	216.6	931.0	23%	×
			△2%	+330%		
V. グリーン購入の推進	品目 対基準	実績不明	実態調査	301.0		○
VI. 環境配慮工法の開発と提案						
件 対基準	実績不明	積極的に 提案を行う	1.0		○	

注) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度＝目標÷実績×100%、増加を目指す場合は、達成度＝実績÷目標×100%

注) 評価欄にて、○：達成、△：やや未達成、×：未達成

注) 化学物質は使用していない。

VI. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減		<u>(目標未達成)</u>
(下記の通り)		(下記の通り)
【事務所】		
電力使用量の削減		<u>(目標達成)</u>
・空調温度の適正化	◎	エアコン温度の設定は適正に行われていた。3月に2階室内機2台及び室外機1台取替済。残りも順次取替を行う。
・不要照明の消灯	○	1階はプルスイッチを活用して細目に消灯できていた。2階もプルスイッチを取付、取組を実施する。
・設備の空運転禁止	◎	不要な設備の空運転はみられなかった。
・2階照明プルスイッチ取付	×	2月に全照明がLEDになった事で電気の使用量が大幅に削減されたが、2階にもプルスイッチを取付更に節電に取組。
ガソリン使用量の削減		<u>(目標達成)</u>
・不要なアイドリングストップ	○	燃費を把握するため、走行距離の記録を取る。
・急加速・急停車の抑制	○	
・空気圧、オイル等の点検	○	随時実施できていたが、今後は走行距離によって点検頻度を明確にし記録を残す。
・公共交通機関の利用	○	営業活動の移動は可能な限り公共交通機関を利用していた。
都市ガス		<u>(目標達成)</u>
・使用湯量の節減	◎	季節によって湯温を調整し、営業時間外は元栓を切るよう徹底して行われていた。
・不要保温時間の短縮	○	ガスによる保温設備はないため、電気使用量の削減取組へ変更。(電気を使用する保温設備：ポット・電気温水器、ポットは不要時電源を切るよう徹底して行っていた)
【建設現場】		
電力使用量の削減		<u>(目標達成)</u>
・不要照明の消灯	○	不要な電力の使用はみられなかったが、次年度は空枠施工時スラブ明取りパネルの使用や仮設足場組立時に明取りシート張部分的に使用して電力の使用量を削減する
・設備の空運転禁止	○	不要な設備の空運転はみられなかった。
ガソリン使用量の削減		<u>(目標達成)</u>
・不要なアイドリングストップ	○	平成29年1月より、公共交通機関の利用を徹底し、基本車の使用はなしとする。 例外として車の使用を認める場合は、燃費を把握するため、走行距離の記録を取る。
・急加速・急停車の抑制	○	
・空気圧、オイル等の点検	○	
・公共交通機関の利用	△	
灯油使用量の削減		<u>(実態把握)</u>
・室内温度の適正化	○	適正に行われていた。
・部屋開放の禁止	◎	徹底して行われていた。
・不在時点火の抑制	◎	実施できていた。次年度も取組を実施する。

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
都市ガス		<u>(目標未達成)</u>
・使用湯量の節減	—	今回発生したガスの使用量は、竣工現場でのガス試験時に使用したものであるため、その他にガスを使用した建設現場はなかった。
・不要保温時間の短縮	—	
軽油使用量の削減		<u>(実態把握)</u>
・発電機の使用時間を短縮	○	実施できていた。次年度も取組を実施する。
・電気引込みが可能な場所での発電機の使用禁止	○	
一般廃棄物の削減		<u>(実態調査中)</u>
・分別によるリサイクルの推進	◎	適正に行われていた。
・ミスコピーの防止	○	使用後はリセットボタンを押すよう徹底できていた。
・裏紙使用	○	徹底して行われていた。ペーパーレス化できる資料があるか検討していく。
産業廃棄物の削減		<u>(目標達成)</u>
・分別による最終処分量の削減	○	稼働現場数や工事の種類により変動がみられるため、一年間様子を見て、目標値の変更を検討する。
・仮設資材の再利用の推進	○	次年度も取組を実施する。
建設リサイクル率の向上		<u>(目標未達成)</u>
・分別による最終処分量の削減	○	稼働現場数や工事の種類により変動がみられるため、一年間様子を見て、目標値の変更を検討する。
・仮設資材の再利用の推進	○	次年度も取組を実施する。
再生資源の利用		<u>(促進に努めた)</u>
・工事資材の再生材利用を協力業者へ依頼	○	次年度も促進に努力する。
水使用量の削減		<u>(目標未達成)</u>
【事務所】		<u>(目標達成)</u>
・節水の周知徹底（節水シール貼付、ポスター掲示）	◎	徹底して行われていた。
・垂れ流し禁止	◎	徹底して行われていた。
【建設現場】		<u>(目標未達成)</u>
・節水の周知徹底（節水シール貼付、ポスター掲示）	◎	稼働現場数や工事の種類により変動がみられるため、一年間様子を見て、目標値の変更を検討する。杭工事の際に使用する水で大幅に数値が変動するため、分けて集計が取れるよう集計方法を検討する。
・垂れ流し禁止	○	
・作業員の靴の汚れはトロ箱に溜めた水で落とすよう周知徹底	○	
グリーン購入の推進		<u>(目標達成)</u>
・手順書に基づき環境ラベル表示製品を優先的に購入	○	事務用品関係は手順書に基づき購入されていたが、建築関係でのグリーン購入を進めることが課題。次年度は建設現場ごとで推進状況を把握する。
・5,000万円以上の工事に関わる備品等は、可能な限り本社で購入・調達	○	
環境に配慮した工法の開発と提案		<u>(実態調査中)</u>
分野別に環境に配慮した工法やノウハウなどを調査し、受注案件への適用検討、施主への提案を推進する。	△	提案はしたが実施にまでは至らなかった。提案をした場合、打合せ議事録や写真にて記録を残す。記録がある場合のみ集計の対象とする。

注) 化学物質は使用していない。

VII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	収集運搬・処分業者との適正な契約、保管基準の遵守、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
大気汚染防止法	石綿使用の有無の事前調査、調査結果の発注者への説明と現場 掲示、特定粉じん排出等作業の実施の届出、作業基準の遵守	遵守
騒音規制法・振動規制法（各市町村公害防止条例）	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
低騒音・低振動型建設機械の規定	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
消防法	消防設備の点検（消火器）	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な 処理、該当機器設置有無の確認、発注者への書面による説明	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

VIII. 代表者による全体の評価と見直し

地球環境、自然環境を次世代に残していくための取組みの大切さを社員全員が認識する、また、認識するだけでなく、行動するという事で宣言を致しました。環境推進委員にとどまらず、社内では色々な意見交換が行われる様になってきました。しかしながら、まだまだ全員には徹底されていないと思いますので今後どの様に社員の意識を高めるかが重要です。社員がエコに対してやる気が出る様な仕組みが必要だろう。

無駄をなくす取組みは始まったばかりですが効果は表れてきています。これをさらに継続していく事がなにより重要です。また、少し時間をかけても、エネルギー・水資源の消費については、実態を調査し、建設現場における消費の変動を理解する努力が必要です。今後、不確定要素となる各現場においては現場毎の比較検討できる体制を理想として取り組んでいきます。

2016年10月5日
代表取締役社長 日下 篤

IX. 環境活動の紹介



<エコカー導入>



<社封筒再生紙>



<事務所全照明LED>



<環境教育訓練>



<防災訓練>



<清掃活動>



<節電・節水>